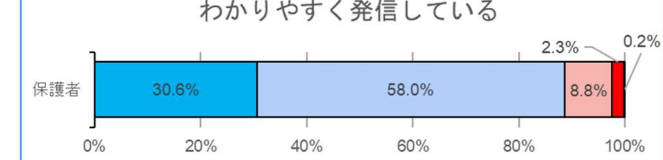
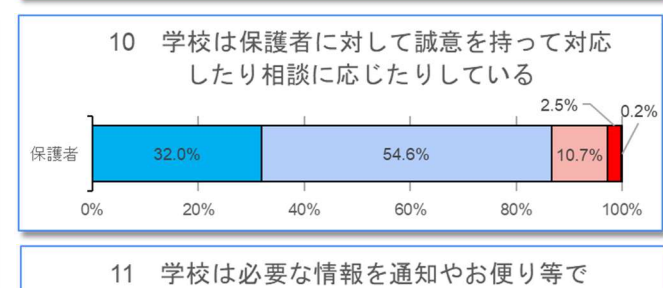
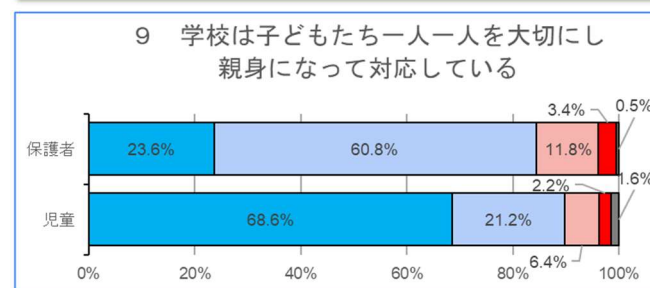
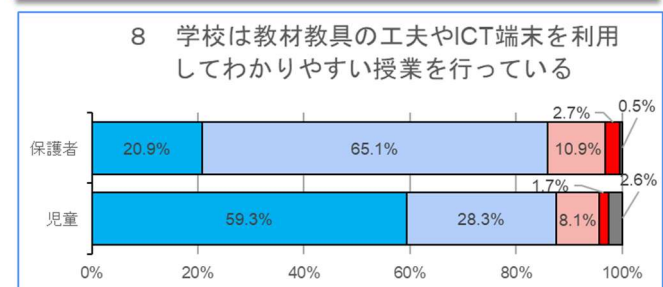
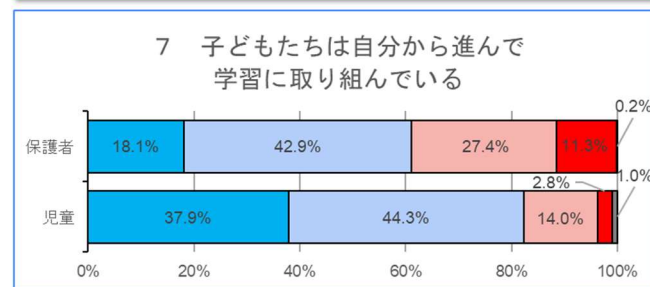
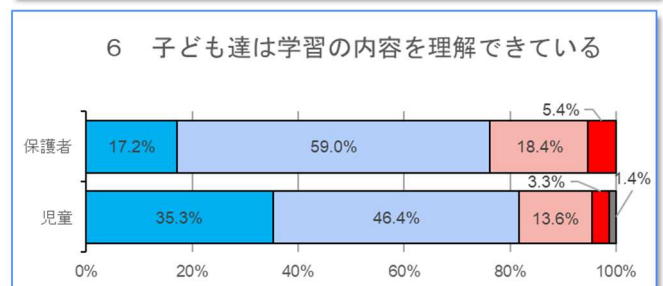
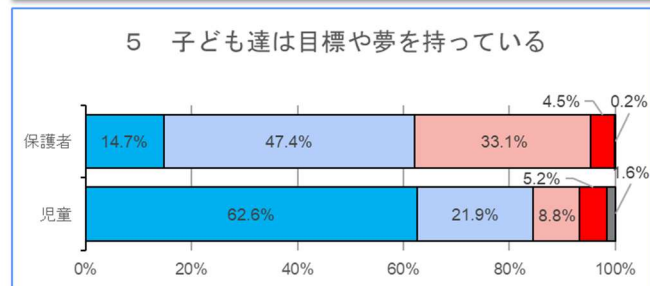
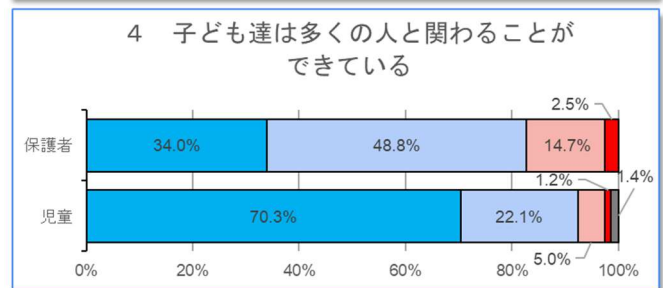
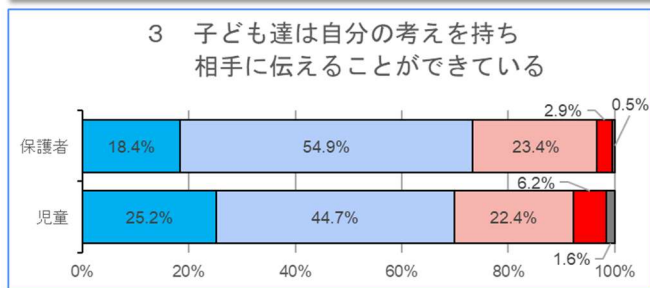
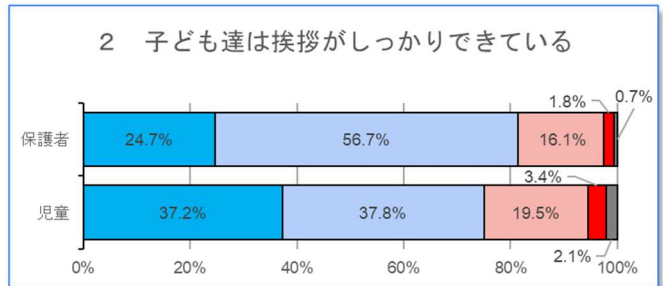
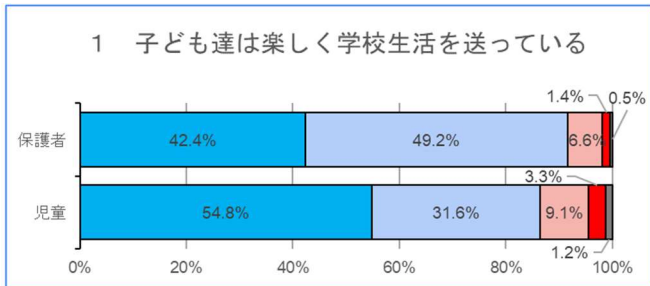


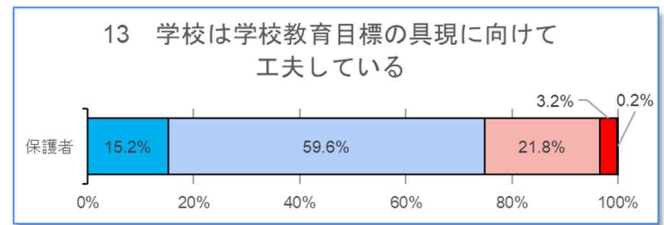
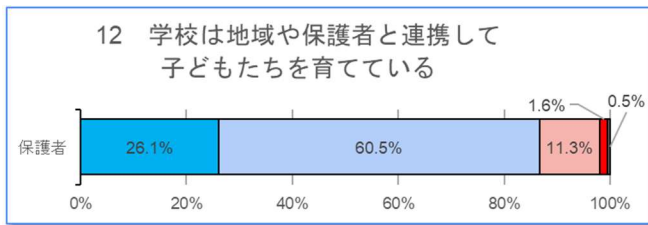
コスモ・スクールうすだ

学校自己評価アンケート 結果報告

学校自己評価アンケートにご協力をいただきありがとうございました。結果概要について報告致します。

【アンケート結果】 ■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答





- 「1 楽しく学校生活を送っている」に肯定的回答をした児童は85%を超えているものの、昨年度よりも低くなっている。引き続き児童の様子を注意深く見守っていく必要がある。
- 「2 挨拶がしっかりとできている」に肯定的回答をした児童は昨年度の89%から75%へと大きく減少している。子どもたちが自分たちの挨拶の様子を振り返る機会ととらえたい。
- 「5 目標や夢を持っている」では児童と保護者の肯定的回答に大きな差がある。子どもたちが抱えている夢や目標に対して、教職員を含めた大人が理解を深めていく必要がある。
- 「8 学校はわかりやすい授業を行っている」では児童・保護者ともに85%を超える肯定的回答をいただいた。引き続き授業改善に努め、児童の学力向上を目指していきたい。
- 「9 学校は親身になって対応している」では保護者の肯定的回答が昨年度78%から今年度84%へと増加した。学校の対応にご理解いただいたことに感謝すると共に、引き続き誠意を持って対応していきたい。

【いただいたご意見から】

○教職員の指導・支援について

日頃の教職員の指導・支援についてご理解と感謝のお言葉をいただいた一方で、児童の名前の呼び方、言葉遣い、個別の児童に対する対応の違いなどについてご意見をいただきました。私たち教師としての姿を見返す貴重なご意見として真摯に受け止めたいと思います。

○行事について

行事の意義・目的・運営方法などについて様々なご意見をいただきました。行事計画については毎年精査して臨んでいるところですが、いただいたご意見も参考にさせていただきます。私たちが行事運営の際に大切にしているのは「子どもたちにとって意義があり、目当てを持って臨める行事」です。教職員の働き方改革を目的として行事内容の精選を図っているのではないということには是非ご理解ください。

学校行事参加への保護者負担軽減を求めるとご意見も頂戴しました。これまで学校行事へのご参加がご負担になっていたのならば申し訳ありません。改めて保護者の学校行事参加のあり方について検討して参ります。一方で、行事運営にあたって保護者の方のご協力が必要になる場面もあります。ご理解の上、引き続きご協力をいただきますようお願いいたします。

○登下校について

熱中症対策、スクールバス運行など登下校の安全確保について様々なご意見をいただきました。スクールバス運行については、学校の判断だけでは対応できない面がありますので、いただいたご意見を市当局にも報告し随時検討して参ります。

校長室から

変化と伝統

校長 井出 誠一

私の妻の実家では、毎年、年の暮れに臼と杵で豆餅をつく。餅米・うるち米・黒豆を蒸かしてついたところに、砂糖・塩・青のりを加え、さらにつく。つきあがった豆餅は、正月の食卓にのぼるとともに、親戚やご近所にもお裾分けをして喜ばれている。どの家庭にも大切にしている家族行事があるように、この餅つきが我が家では大切な年中行事となっている。ただ、義父から私が受け継いだ“つき手”の役割が、最近では私から私の長男に引き継がれつつあるように、その形は年々少しずつ変わってきた。

同じように、それぞれの学校には大切に守り続けたい伝統や行事がある。開校二年目を迎えた本校は、学校としての歴史はまだ浅いものの、旧4校から受け継いだ活動を取り入れながら、その伝統を築くスタートラインに立っている。そんな今だからこそ、この一年間あるいは開校以降の二年間における学校の取組について、多くの方からご意見・ご批判をいただくことは必要なことなのである。

学校自己評価アンケートにお答えいただき、率直なご意見を寄せていただいた皆様に改めて感謝申し上げたい。いただいたご意見は、私たち教職員にとって必ずしも耳障りのよいものばかりではなかった。しかし、だからこそ、いただいたお声に真摯に耳を傾ける私たちの度量が試されているのだと私は思う。

我が家の餅つきの“つき手”が義父から私、私から長男へと変わってきたように、創生期にある本校の教育活動や行事は、今後検討を重ねる中で変わっていく可能性がある。大切なのは、子どもたちのためにできることを追い求め続けるという姿勢である。その変化の中で練り上げられたものが、本校の伝統として形成され、受け継がれていくことを期待している。